

銀友

本郷学園
同窓会誌

平成21年6月1日

第38号



吹奏楽部の第3回スプリングコンサート

(2009年3月31日東京・北区滝野川会館で)

総会のお知らせ

日時 平成21年6月20日(土)15:00より

場所 本郷学園会議室

(懇親会は17:00より)

銀友三十八号 目次 平成二十一年六月一日

同窓会会長挨拶	山内 英夫	2	平成二十年度事業・決算報告	25
本郷学園理事長挨拶	松平 頼武	3	平成二十一年度事業計画・予算案	26
校友を訪ねて	阿出川信夫	4	同窓会役員一覧	27
北島康介選手の間人力	三好 修	8	学園便り	28
対談・社会人大学院生が目指すもの	富岡・田中	10	会費納入者一覧	30
「まんが甲子園」出場の後輩達に喝采	佐藤剣太郎	13	計報・編集後記	37
「お年寄りの原宿」巣鴨	森田 知男	15		
同期の輪		16		
本郷祭報告	齊藤 毅	22		
情報 box		23		
定期総会報告	市倉 洋一	24		

ご挨拶

同窓会会長

山内 英夫 やまのうち



本郷学園では、昨年から懸案であったグラウンドの人工芝化が完成、同窓会としても記念に月桂樹の苗木を寄贈植樹いたしました。緑鮮やかなグラウンドでは休憩時間や放課後、スポーツに興じる生徒で溢れんばかりの光景が見られます。このグラウンドから、全国大会の地区代表となるスポーツチームが生まれることを期待したいと思います。

有名大学への進学状況も逐年向上し、週刊誌等にも躍進する私立校の一つとして取り上げられて来ていることは、卒業生としても誇らしいことであります。

同窓会では、組織の活性化を図るためにも同期会、クラス会の開催を後押しする活動が続けて来っていますが、その一環として学園側の協力も得て、昨年初めての試みとして、卒業後二年を経て成人を迎えた卒業生が一堂に会する機会を作ることを目的に、「成人の集い」を企画開催いたしました。幸い、もと担

任の先生方も含め百名を超す参加者があり、盛況裡に終わりました。同期会クラス会開催のきっかけ作りのためにも今後毎年の行事として続けて行きたいと考えています。現在第二回の開催準備を進めていますが、昨年を上回る参加者が予想されているようです。学園の文化祭（本郷祭）に併せて開いている同窓会サロンの参加者も年々増加していることも喜ばしいことであります。団塊の世代が次々と還暦を迎えている昨今、この世代が同期会クラス会を開催する絶好のタイミングだと思えます。同窓会としても名簿作り等で、お手伝いいたしますので是非御相談下さい。

ところで、同窓会の運営に直接携わる運営委員も次第に高齢化しつつあります。活動を活性化するために、若返りがぜひとも必要であると考えています。会員の皆さんのこの面での協力を、心よりお願いし本年の挨拶といたします。

ご挨拶

本郷学園理事長 **松平頼武**



日頃、同窓会の皆様には母校のためいろいろなご支援、ご指導を頂きまして有り難うございます。心から御礼を申し上げます。

平成二十年度から、学校は、高橋雄校長から北原福二校長に代わり、高校は山梨英克教頭、中学は佐久間昭浩教頭という新体制に変わりましたが、順調に運んでおります。

9月にはグラウンドが人工芝に生まれ変わり、雨天の後もすぐに使え授業がスムーズに出来るようになります、生徒達にも好評であります。また、生徒の怪我が少なくなったという結果が出ています。

体育祭、文化祭、競技大会、朝礼などの諸行事を生徒会の手で自主的に運営する形が定着したこと、文武両道、自学自習、生活習慣を身につけることの校風が良い方向に向かっていると喜んでおります。

大学への進学実績も、平成20年度は前年を上回る結果となりましたし、中学、高校への入学も好成績

となっており喜ばしいことであります。

同窓会には、高校卒業二年目の同期生の集まり「成人の集い」を主催していただき、第1回目の昨年には百名を超す集まりが出来、OBの方々、恩師との交流が出来たことはたいへん意義あるものでした。今後も長く続けて頂きたいと存じます。

今年も三百二十名の高校卒業生が、大学に、社会に大きな夢を持って巣立ってゆきました。同窓会の諸先輩にはよろしくご指導いただき、一人一人が大成いたすことを願っております。是非よろしくお願いいたします。

校友を訪ねて

阿出川信夫氏（高校13回＝昭和36年卒業）に聞く

本郷サッカー育ての親——母校の保健体育教諭を定年退職——



「子供を大人にし、大人を紳士にするスポーツ」といわれるサッカー・ワールド・カップを頂

点にプレーヤーとファンのすそ野を広げ続けている。そのサッカーで、「本郷高校」の名が全国に知れわたった。その陰の立役者は、保健体育の先生でサッカー部監督だった阿出川信夫氏（高校13回＝昭和36年卒業）だ。このほど定年で退職した阿出川氏にインタビューした。

◇
——母校の保健体育教諭を昨年三月に定年退職されました。長い間、大変にご苦労さまでした。まずは今の心境を。

阿出川信夫 いやー、もう、のんびりしています。ほっとしています。それでも朝はいつものように目が覚めてしまいます。語りつくせないほど、いろいろなことがあります。語りました。でも、改めて振り返ってみると、あつという間のように感じられます。必死でしたからね。毎日がね。一日一日が短く感じられる日々でした。定年退職まで頑張りとおせて満足です。最初の教え子が今年で還暦を迎えました。一万数千人の卒業生を送り出し感慨無量です。教育者の一翼を担え

たと自負しています。サッカーについていえば、多くの教え子が日本サッカー界をさまざまな立場で支えていることが、なよりの喜びです。

——学校の先生になろうと思われたのはいつごろですか。

阿出川 中学生の時です。熱心な体育の先生にあこがれて、その道に進もうと心に決めました。今でも尊敬する立派な先生です。別の中学校でしたが、私と同じように、その先生と出会って体育の先生になろうと決意した本郷の後輩がいます。サッカー部のOB会会長をしていた田中功（昭和46年卒業）君です。東京の成城学園にいます。高

校進学で相談したところ、「本郷に阿出川という教え子がいるから」とアドバイスされ、本郷高校を受験したと聞いています。

——本郷高校では器械体操部に。

阿出川 中学校ではサッカー部にいました。各運動部が活発な中学校で、鉄棒にぶら下がって、じょうずな仲間と器械体操めいたことをして遊んでいたので、けっこう器用な方だし、多少は自信もあり入部しました。当時の本郷の器械体操部は東京ではトップクラスでした。毎年、国体選手が二、三人は出ていた。二年生の時は関東大会で優勝しています。そんな時代でした。大学も器械体操を続ければ推薦で行けました。しかし、もう一度サッカーをやるう、との思いが強くなり、一般入試で日本大学に進みました。

——本郷の先生になられたきっかけは。

阿出川 本郷の同期生で、サッカー部にいた

清川洋吉君から「本郷のサッカー部をみてくれないか」と誘われたからです。清川君とは、中学生の時にはサッカーで対戦した仲で、共に本郷高校に入学しました。大学では二人とも、学校は別でしたが、サッカーをやっていました。その清川君の紹介で、当時、サッカー部の顧問でもあった野口泰彦先生にお会いし、それから話がとんとん拍子で進み、大学を卒業してすぐに本郷に入りました。昭和四十年のことです。

——以来、四十三年間、無遅刻無欠勤。

阿出川 希望していた教職の道ですから張り切っていました。休もうと思ったことなどありませんでした。毎年毎年、新入生を迎えるたびに、『よし！今年もやるぞ』と仕切り直しをして臨んできました。さらさらと瞳を輝かせている彼らと接していることが楽しく、多少、体調を崩すことがあっても学校に行きました。それと、休むサッカー部の監督になりましたので、休む

暇はありませんでした。試合に備えて選手たちには日曜、祭日もなく、厳しい練習を課しているわけですから、監督が休んでいたのでは話になりません。それと、丈夫な体に産み、育ててくれた両親には感謝しています。有給休暇を二日とっただけです。

——本郷を一気にサッカー実力校に。

阿出川 一定レベルになるには十年はかかると思っていました。五年目にインターハイに進出するまでになりました。そうなる、いい選手が来てくれるようになって、メキメキと力をつけてきました。もともと、当時は、あまりサッカーをやっていない生徒でも、運動能力があれば通じたところがありました。レギュラーでも半分以上はサッカー未経験者でした。ただ真面目だった。練習を一生懸命してくれましたね。

——真面目に練習する。

阿出川 それが一番。それしかありません。

工夫して全員でボールを使い、休む時間を与えない練習をしてきた。走りながらやることばかり。だからスタミナがあつた。持久力はどこにも負けませんでした。練習は厳しかったですよ。大学以上でしよう。個々の練習は、選手たちにそれぞれの課題を与え、本人の自覚にまかせてきました。

——サッカー選手の必須条件は。

阿出川 やはり自己管理がしっかりできること。自分自身をコントロールできるから、フィジカルなトレーニングを含め、単純な繰り返しともいえる基本練習もやりとおしていける。ボールを蹴っていれば、それは楽しいですよ。でも、それだけではものにならない。それと、試合の流れのなかで常に考えてプレーができること。そこにヒラメキが生まれ、フラインプレーにつながる。考えないでやっている選手は天才以外ダメです。

——自己の管理能力が基本ですね。

阿出川 サッカーに限らずスポーツの世界、社会生活の全般にわたっていえることです。そのことは生徒たちに、学校教育の一环として、常に意識して指導してきました。プロになって身を立っていきける選手となると、ほんの一握りしかいません。だからこそ、社会で立派に生活していける力を、サッカーをとおして学びとってもらいたい、との思いで接してきました。サッカーと素直に、そして真面目に取り組んでいけば自然と身についていくものです。もともと、自分勝手にひとりよがりの人間は別です。プレーは抜群でも、結局は社会生活に融合できずに、脱落していく選手もたくさんみえました。

——印象に残っている本郷の選手は。

阿出川 日本代表のゴールキーパーコーチをしている加藤好男君（昭和51年卒業）ですかね。選手としてゴールキーパーの日本代

表にもなった。オシム監督が起用した日本人初のキーパーコーチです。上荒敬司君（昭和53年卒業）は国際審判員だった。野口光彦君（昭和57年卒業）も日の丸をつけた選手です。今はJACPA東京F.C.の監督として、いい選手を育てている。佐伯憲二（昭和46年卒業）、田口貴寛（昭和51年卒業）、稲垣菊夫（同）、田中喜生君（昭和52年卒業）たちが日本リーグのチームに進みました。Jリーグのチームには山田隆（昭和54年卒業）、飯田勉（昭和59年卒業）、岡本武行（昭和61年卒業）、新井信明君（同）たちがいました。

——そうした選手が育った本郷サッカーの伝統とは。

阿出川 練習のレベルを落とさなかったことです。つまり猛練習。基本ができているから大学に行って伸びた選手も多かった。大学のキャプテンを本郷出身者が占めていた時代もありました。また、多くの卒業生

が指導者として活躍しています。横山賢太郎君（昭和51年卒業）はヴェルディS.S.レスチ・ジュニアユースの監督をしています。佐熊裕和君（昭和57年卒業）は、あの中村俊輔選手が出た桐光学園の監督で、野口君と同期です。篠田隆司君（昭和58年卒業）も桐光のコーチをしています。篠田君と同期の小島時和君が埼玉の正智深谷高校の監督、同じく同期の小森伸一君は東京の東海大菅生高校のコーチです。少年サッカーの指導者も多い。高校などで活躍している選手の父親が卒業生という例をあげたらきりがありません。OBたちでシニアのクラブチームをつくり全国大会をめざしています。

——教え子たちの応援に行くだけでもスケジュールが埋まってしまいそうですね。今後の生活プランを。

阿出川 とりあえず、本郷をアドバイザー的にみえています。あと、佐藤修一君（昭和54

年卒業）の小学生のクラブチームを週に二日ほどみる予定です。女房によくいわれました。「家のことは何もしないが、サッカーなら海外まで行く」って。これからもサッカーから足は洗えませぬね。

——本日はお忙しいなか大変にありがとうございました。



◇ 平成21年1月11日
本校同窓会室にて
取材〓市倉洋一
関塚正治
野田悠二
写真〓寺田正美

◇阿出川氏の足跡◇

年 度		本郷高校サッカー部のおもな戦歴	
昭和45年	全国高校サッカー	3回戦	インターハイ
昭和48年	1回戦	3回戦	ベスト8
昭和50年	1回戦	2回戦	準優勝
昭和51年			
昭和52年			
昭和53年	第3位	3回戦	
昭和56年			
地域ユース			
昭和61年	ユース地域選抜大会	関東選抜	優勝
昭和62年	ユース地域選抜大会	関東選抜監督	準優勝
昭和62年	ユース候補東西対抗戦	東軍監督	優勝
国 体			
昭和48年	少年の部	コーチ	4位
昭和49年	少年の部	監督	準優勝
昭和50年	少年の部	コーチ	4位

北島康介選手 (高校53回＝平成13年卒業) の人間力

二〇〇八年八月八日午後八時。「ひとつの世界・ひとつの夢」をスローガンに掲げた、第二十九回夏期五輪北京大会の開会式が国家体育場(鳥の巣)で始まった。その「鳥の巣」から三百メートル程西寄りに「国家水泳中心」がある。このメイン会場は天安門・故宮から真すぐ北に行った場所にあった。地下鉄を乗り継いで会場に行ったが、乗る前に手荷物を検査され、又メイン会場に入る前に身体検査をされ、水泳会場に着いた。

水泳競技は九日から始まった。中国選手が出場すると「加油・加油」の大合唱。百メートル選が始まり、北島君は「すぐくきれていた。勝負は明日から」とのコメントのように余裕

が見られ、全体の二位で準決勝に進んだ。ハンは泳ぎが重く感じられ十位で予選を終え、消えたと思つた。しかし、ダーレオーエン(ノルウェー)のような若手も台頭してきていたので心配でもあった。十日の午前十時半から準決勝、十一日午前十時半から決勝が行われたが、この変則的な運営(アメリカのゴールデンタイムに合わせた運営・スタートリストの配布もない)に驚かされた。

決勝でコールされた時、北島君は前方をにらみつけ胸の日の丸を握りしめ、鬼のような形相になっていた。スタート台では身長差など気にならない程大きく見えていた。スタートの電子音が鳴り、歴史の一ページが開かれ

た瞬間であった。五十メートルを三位で折り返したが、得意のターンと後半の粘り強さで七十五メートルではトップになり金メダルを確信し、世界新記録で二大会連続の金メダルとなった。北島君はテレビのインタビューで「なにも言えない」と涙ぐんだが、その時の思いは本人しか分からない四年間の苦しみ・努力が実つた瞬間であった。レーザーレーサーばかりが注目を集めた今大会でも、北島君の気持ちは「泳ぐのは僕だ」に集約されていると思う。

二百メートルは敵なしと思つていた。しかし五輪には魔物が住んでいると言われており勝負事であり、手を抜くことはできない。北島君は予選から着実に泳ぎ、準決勝は五輪新記録の

一番乗りで決勝に進んだ。私はチケットの都合で準決勝を観戦してすぐに日本へ帰国し、決勝は自宅のテレビで観戦した。二大会連続の二種目金メダルの快挙は「一つの夢」を成し遂げた瞬間であった。

さて、北島君のこの強さの秘密とはなんであらう。私は水泳のプロでもない経験者でもないで、この難問に挑戦するのは悩むところである。

二〇〇〇年シドニー五輪の時、「やっばり四番って悔しいな」との思いから、〇一年には平井伯昌コーチを中心とした専門家集団「チーム北島」ができ上がった。「運動生理学、戦術分析担当」岩原文彦氏（本郷高校水泳部OB）、「映像分析担当」河合正治氏（競泳委員として日本の泳法技術分析のスペシャリスト）、「肉体改造担当」田村尚之氏（元全日本女子柔道コンディショニングコーチ）、「コンディショニング担当」小沢邦彦氏（指

圧センター院長）の五人のスペシャリストがボランティアでサポートにあたり、世界の頂点に担ぎ上げた。北島君が「幼児おためし無料体験」から通った東京スイミングセンターは、一九六八年当時、日本ではまだ珍しかった五十^{リットル}温水プールを備えていた。

私が水泳部の顧問を引き受けた頃は、夏休み前に高校一年生が水泳教室をさせていただけ施設でもある。（当時は外にも五十^{リットル}プールがあった）練習量と練習時間は他のクラブに負けない誇りと自信が選手たちの体にしみ込んでいる。さらに細分化した指導内容は、個人メドレーを中心とした総合的な泳力の体得を基本としている。早くから専門職としての泳法ではなく、選手の体にあった泳法にさせていった。

天才北島康介を生んだ環境とボランティアでサポートしてくれた人たち。五輪連覇という快挙は、どんなハードな練習でも耐えら

れる精神力と持続することができる忍耐力と集中力を兼ね備えた人物だからこそ、できたことなのだろう。

そしてこれからも多くのアスリートが記録に挑戦してくることであるだろう。しかし「記録は塗りかえられても、記憶に残る人物」になったことを私は誇りに思う。試合が終わってインタビュに答えている北島君の顔はどこまでも優しく、素晴らしく成長していることを物語っていた。



東京スイミングセンター祝勝会での北島選手(左)と三好先生

社会人大学院生が目指すもの

富岡俊明氏（高校21回 昭和44年卒業） Vs 田中良一氏（高校24回 昭和47年卒業）



富岡俊明氏
高度の学術理論とその応用を教授、富岡俊明氏を研究する大学院に学ぶ社会人が増える

筑波大学の大学院マスターコース（修士課程）で学ばれる富岡さんにお話をお聞きしたくて、おうかがいました。よろしくお願いいいたします。私は現在、大手印刷会社のグループ企業で働きながら、佐賀大学大学院ドクターコース（博士課程）で情報工学を専攻しています。

富岡俊明 こちらこそ、よろしくお願ひいたします。私の大学入学は、一年浪人して東洋大学法学部に入りました。卒業しても二年ほどブラブラしていました。当時、オイルショックで景気はどん底でした。両親から「そろそろ働け」と強くいわれ、一念発起、国税専門官の試験を受けて合格しまし

た。それから約二十八年間、東京国税局に勤務し、平成十六年に税理士事務所を開設して独立しました。

田中 本郷高校卒業後、東海大学で物理を勉強していました。上に進もうとしましたが失敗。二年間、昼間はアルバイトをし、夜、早稲田大学の専門学校に通いました。本郷高校で物理の教育実習を受け教員免許は持っていましたので、教員をやるうかとも思いましたが、二年間のプランクがあるのであきらめ、なんとか印刷会社に入れてもらいました。会社では、入社以来ずっと、半導体のLSI設計を手がけてきました。が、五年ほど前から、五十歳になるのを機

ています。ここでは、富岡俊明氏（高校21回 昭和44年卒業）と田中良一氏（高校24回 昭和47年卒業）に大学院生活を語りあっていたきました。

☆

田中良一 きょうは、税理士をされながら、

会に、技術者採用という総務・人事系の仕事を担当しています。

富岡 国税局に勤務していた時から、税制について本格的に勉強したいと思っておりました。税理士事務所開設から二年間ほど準備期間において、社会人を受け入れている夜間の筑波大学大学院に入りました。租税法を研究しています。

田中 大学院は難しいというイメージがあります。受験勉強はいかがでしたか。私の場合は、おかげさまで十年以上の研究・技術者経験があれば社会人特別推薦でなんとかなるといわれ、克明な経歴書および資料と



田中良一氏は口頭試問ですみました。

研究計画書を提出し、あと二時間ですみました。

論文を書き上げる試験でした。過去四、五年間の問題を調べ、要は論理学の問題なので、多くの租税に関する論文を読み臨みました。

田中 マスターコースの就学年限は二年で、講義や演習で週に二、三日は通わなければなりませんね。税理士の仕事をされながらですから、かなりハードだったのではないですか。レポートもしっかり出さなければならぬ。

富岡 仕事で長期欠席の方もいれば、一年で必要な単位を取得する人もいます。私は自営業ですからなんとかなりました。この六月には修士論文の最終審査があり、七月にはマスターコース修了の予定です。

田中 私の場合は、就学年限三年ですが、頻りに学校に行くこともなく、先生と情報を交換して論文を作成と学会誌に査読付き投稿できればなんとかなります。二年目の今は、三か月に一回ぐらいの大学訪問です。富岡さんの修士論文は、どんなタイトルで

すか。

富岡 「租税法における時価の意義およびその問題点」です。長い間、東京国税局に勤め、実務面で経験と知識を積み上げてきましたので、それなりに自信はありましたし、税理士として独立もしました。その一方で、租税の本質論を理論的に把握したいとの思いは、東京国税不服審判所の勤務の頃から日々強くなり、また、本を執筆したときに勉強不足を痛感し、大学院で学ぶことにしました。大学院では、それぞれの税法が、「ものの時価」をどのようにとらえて課税しているのか、トータルとしての理論構築に挑戦してみたかったです。

田中 『マンシヨンの建替えと譲渡所得―建替えの法律知識と譲渡税の取扱い』という本ですね。それをまとめるだけでも十分、修士論文になるのではないですか。

富岡 国税局時代から、いろいろと原稿は書いてきました。その本は、現場経験を踏まえてまとめた実用書です。ただ、国家公務

員の守秘義務がかかっているもので、書けない部分があります。いいたいことの半分ぐらいしか書いていません。その点、大学院に学ぶなかで執筆する論文は、踏み込んで自分の研究成果を展開していきます。

田中 私が大学院で研究している情報工学とは、わかりやすくいえばコンピュータの応用を考える学問です。IT革命とかIT産業などといわれ、時代の最先端をゆく分野です。先ほど述べましたが、私は職場で長年、半導体の設計にたずさわっていましたので、IT技術を使って、どこに住んでも、たとえ遠隔地であっても学べる半導体の専門知識教育支援システムを開発したいと思っています。これが大学院に進んだ理由です。私の周辺を見わたしてみますと、専門的な知識、経験のある社会人が大学院で学び、その後、大学や大学院の先生になれる例がかなりありますね。

富岡 私は、弁護士とか税理士事務所の人たちをサポートするコンサルタントがで

れば、と思っっています。たとえば民事上の問題で和解を成立させるにしても、必ず税金がからんでくるので、専門知識が必要です。複雑な租税法の象徴として、「裸一貫事件」という有名な話があります。離婚した歯医者さんが元の奥さんに住宅や土地など全財産をあげてしまい、丸裸の無一文になってしまったのですが、その歯医者さんに所得税が課税されました。

田中 と、いいますと。

富岡 一般的には、財産を手放したのになぜ税金がとられるでしょうか、所得理論において、何を所得と考えるかという論争があります。「裸一貫事件」は、歯医者さんが土地を保有していた期間に資産の値上りが発生しているので、その値上がり益は「所得」であるから、歯医者さんには手元から土地を手放したときに、その値上り益に対して課税すべきである、という論理で課税が正当化されました。このように租税理論は、民法や会社法を基礎としながらも

独自の理論展開がなされています。

田中 財産をもらった元の奥さんが贈与税を払うのはわかりますが、贈与した方に所得税がかかるのは、なんで、と思っいますね。複雑ですね。

富岡 きちつと定められているはずの税法ですが、いざ適用していくとなると、最高裁に持ち込まれるほど解釈は分かれてしまいます。このような複雑な社会事象に関する租税法上の難問の解決策を、世の中に発信できればと考えています。

田中 私は現在、キャリア形成と就職を支援するNPOも立ち上げています。この活動をさらに展開して、若者キャリア支援のWebサイトを構築していくのが当面の課題です。大学院生活も二年目に入っています。早く修了して次のステップに臨みたいですね。本日は長時間、お付きあいいただき、大変にありがとうございました。

「まんが甲子園」出場の後輩たちに喝采

佐藤剣太郎（高校53回Ⅱ平成13年卒業）



昨年の第十七回「全国高等学校漫画選手権大会（まんが甲子園）」（八月二、三日）は、私にとって特別な大会となりました。私は今、数学教師として順天高校に勤務し、劇画部の顧問をしています。その順天高校劇画部と、母校である本郷高校漫画劇画部の二校が、まんが甲子園本選に出場したのです。両校は、全国三百二十六校がエントリーした予選を勝ち抜き、三十校しか参加できない本選にみごと駒を進めました。

大会で順天は、賞こそ取れませんでした、決勝に進みました。三回目の出場となった本郷は、力及ばず決勝進出はなりませんでしたが、しかし、この大会から企画された予選の全作品を対象とする「Webサイト人気投票」では全国第一位（ドリームトライブ賞）となり、本郷のレベルの高さを証明してくれました。また、将来の漫画家の発掘をめざす各出版社によるスカウトマン選抜生徒には太田絃一君が選ばれていました。

同級生で漫画劇画部の仲間だった葉原東昇君が、職場の有給休暇をとって応援に来てくれ、旧交を温めることができました。大会中、激励の漫画を何枚も描いて、FAXで送ってくれたのは、部長であった私と共に副部長として漫画劇画部を支えてくれた江川勝久君で

した。漫画劇画部で苦楽を共にした友の熱い友情にも包まれての大会でもありました。

子供のころから漫画が大好きな私でした。本郷中学からそのまま高校に進むと、さっそく漫画劇画部に入部しました。中学の時から入りたかったのですが、当時は高等部にしか漫画劇画部がなかったので、まさに満を持しての入部です。ところが、部活動は二か月に一回程度しかなく、非常に落胆したものです。そこで、有志を募って週に一回ほど集まって練習するようにしました。そして、二年生に進級してからは、先輩方が結構、自由にさせてくれましたので、部活を週に三日ほどに増やして本格的に取り組みました。

とはいえ、学校に美術の先生はいても、漫画の先生はいません。ですから自主的に自分



Web投票一位となった作品 テーマは「居場所」

たちで工夫しながらの部活でした。お互いにテクニクを教え合いながら練習しました。好きな者同士の集まりです。人体を描くのが得意、背景を描くのがうまい、女の子の目を描かせたらピカ一と、それぞれに得意な分野がありましたので、アドバイスし合いながら、腕をあげていきました。時には、本屋さんで技術の本を立ち読みして勉強したこともあり、三年生で部長になったのを機会に中学生にも門戸を開き、さらに部活の充実を図っていきました。

部活の最大の目標は、今も変わらないとは思いますが、九月の本郷祭(文化祭)に部員たちの力作をまとめて作品集を発表することでした。「まんが甲子園」にも毎年応募はしてきましたが、顧問の宮沢正善先生にすすめられて仕方なく、といったスタンスでしたので、もちろん本選出場はできませんでした。八月の「まんが甲子園」の準備と九月発表の作品集の製作時期がダブってしまうので、どちらかといえば作品集の出版を優先させていたのです。その作品集は、私が部長の時に今の形の『本郷本』にしました。

このように部活に明け暮れる日々も、宮沢先生の存在なくては語れません。先生は私たちを信頼して意見を尊重してください、ひとつひとつバックアップしてくださいました。そのおかげで自分なりに漫画を描くことのおもしろさ、醍醐味を追求することができました。先生には今でも感謝しております。

こうした高校生活でしたが、大学受験を忘れていたわけではありません。先生方の受験

指導に従って勉強し、予備校の夏期講習にも通いました。その一方で部活を通して、「将来も好きな漫画にたずさわっていきたい」、「部活を通して培った漫画に関しての知識を生かしたい」と強く思うようになりました。学校に美術の先生はいても、漫画の先生はいないことを思い出し、学校の先生になって漫画部の顧問になろうと進路を決定しました。三年生の十月半ばまで部活に没頭し、それから心機一転、受験勉強に集中し、東京学芸大学の教育学部数学科に進学しました。

「まんが甲子園」への本選出場を果たした後輩たちが、それと同時に並行で、一段と立派な『本郷本』発行するほど充実した部活を展開していることに、心から敬意を表します。現役で「まんが甲子園」に行けば、すごく良い経験になる、というのが私のいつわらざる感想です。今後も後輩たちと、何回も“高知”で会えることを楽しみにしております。漫画部、劇画部の皆さん、頑張ってください。

『お年寄りの原宿』 巢鴨

森田

知男（高校20回Ⅱ昭和43年卒業）



私は、昭和四十三年卒業生です。当日は、巢鴨駅のホームから白山通

り、巢鴨商店街は、黒紋付きの多くのお年寄りで賑わっていました。特に白山通りの横断歩道は、途切れなくお年寄りが行き交っていました。通学するようになって初めて目にした私はどうして、こんなにとげ抜き地蔵尊に人気があるのか不思議でなりませんでした。ところがその後、昭和五十七、八年ごろ、北海道の親戚が遊びに来た時、当時話題になった原宿の竹下通りに行くことになりました。原宿駅前はその若者がぞろぞろと行き交

い、その光景に高校時代強く印象に残っていた白山通りの横断歩道が突然思い出されまわってきた。老いも若きも、どこからともなく集まってきた。横断歩道を渡る光景は、まるつきり同じでした。そして、同じ気持ちを持つている人間であることに、初めて気がつきました。私は、信用金庫に勤務していますが、その当時、取引先に時々とげ抜き地蔵へ行っていたおばあちゃんがいました。訪問するとお茶を頂きお話もしました。「昨日は、お留守のようでしたが、お年寄りの原宿へ行かれたのですか？」と何気なく言いますと、大笑いし、とても感心されたようでした。その後、お年寄りの原宿が、巢鴨の代名詞みたいに言われるようになったような気がします。ところが最近では、むしろ、おばあちゃんの原宿と言われるようになっていきます。しかもその言葉が、ある企業によって商標登録されてい

るのに驚きました。

同じ「原宿」を引用していますが、私はお年寄りも若者も、年齢に関係なく、何かを求めて集まる心は同じだなどと思って言ったつもりですが、口当たりの良い言葉に置き換えられ、商業ベースに乗り拡大したような気がするからです。しかし、「おばあちゃん」と呼ばれたいというのならそのほうが、支持されるということなのでしょうね。

「お年寄りの原宿」は、決してお年寄りを揶揄する気持ちはありません。巢鴨に対するわが青春の思い出と共に、お年寄りと若者を区別せず、共に存在感を世間にアピールし、笑いと感動をもって「巢鴨」を語る言葉だと思っています。最近では本当に若者の巢鴨詣が増えているようですが、気がつけば私も遠からず巢鴨詣でをすることでしょう。



同期の輪

高校58回(平成18年卒業)成人の集い

(金尾晋一郎)

昨年五月十七日に行われた同窓会の第一回「成人の集い」(写真)の実行委員長をつとめさせていただきました。当日は、御子柴怜志君が司会をし、僕自身は、所用で遅れたため、代わって黒部直樹君が開会のあいさつをしてくれました。

会場に到着してみると、すでに、お酒もかなり入っていて盛り上がっております。同窓生との二年ぶりの再会です。しかし、そんな時間の経過を感じさせない、とてもなごやかな雰囲気でした。

中学11回(昭和12年卒業)青雲会

(市川雄一)

元気な米寿の集まり(青雲会)卒業以来有能な幹事に恵まれて続けられてきた青雲会も、四年ほど前、最終回の会合で一応その幕を閉じることにしたが、その後首都圏在住の数名の要望もあり、時々会って昼食会をやらうと平成十七年春に「ミニ青雲会」が新しく発足した。そして今年(平成二十年)十一月六日に八回目の会合を銀座四丁目のコアビル地階の「いらか」で行なった。集まる米寿の面々は六名だった(写真)前列左より塚田芳雄、水谷郁夫、山岸勝美、後列左より木村善男、高橋耕一君と私)が、いずれも後期高齢者とは思えない元気な顔ぶれである。本中在校時永井道明教頭はじ



本郷の制服から解放され、思いも思いの服装で先生たちを囲んでの歓談の輪がいくつもできていました。そんな輪の中に入り、学園生活の数々の出来事、出席できなかった友人たちのことを懐かしく思い出しながら語りあい、楽しい時間をもちました。

アルバイトに明け暮れる学生生活もあと一年となりました。いよいよ社会人として巣立っていくわけですが、未知の世界に勇らしく挑戦していきたいと思っております。

参加者も七十人を超え、無事に「成人の集い」を進めることができましたのも、先生はじめ諸先輩の皆様の助けがあったること、と感謝しています。この「成人の集い」が、同窓会の伝統行事として継続されていくことを念願しております。

最後に、本郷学園、そして皆様方のますますのご発展をお祈り申し上げます



め先輩教員に鍛えられ、戦時中は第一線の戦場でも苦労辛酸をなめたからであろう。

美味しい和食を戴きながら、話題は戦中・戦後の苦労話を中心で、今は亡き同窓生の思い出などにも話が尽きなかった。今後も春と秋の年二回の再会を期して閉会した。



中学18回(昭和20年卒業)同期会

(岡田光正)

本郷学園旧制(中学)十八回の

同期会は、毎年十一月の第二土曜日に行われております。二十年十一月八日(土)には、日本教育会館で第三十七回の総会が行われ、当日はあいにくの雨にもかかわらず、三十一名の旧友が集まって下さいました(写真)。この日は志田芳久君の「西洋音楽と日本

音楽の融和は果たせるか」とのテーマの講演もあり、年輪を重ねたかつての若者達の愉しいひとときを過ごすことができました。

高校12回(昭和35年卒業)同期会

(松井義次郎)

『私が毎年必ず出席する忘年会は、今から二十年前、高校教師をやっていた時の教え子たちの集まりで、彼らは勝手に「マゴロク会」と称して私を招いてくれる慣行になって

おり、年老いるのも忘れるほど楽しいので私は欠席することがない。私ごときを英語教師として雇う程の私立高校だったから、生徒諸君の学力も推して知るべしであったわけだが……。二十数年前一次志望でない学校に入ってきた彼らは一様に自信はなく、荒んでいた者もいたが今では皆堂々たる社会人になっていることに私は年を忘れた。』

一年の担任で直木賞作家、井出孫六先生の著書「昭和の晩年」昭和五十五年十二月十一日付の忘年会にふれた文章である。広辞苑

(6版)によれば、忘年会とは「その年の苦労を忘れるため年末に催す宴会」とある。

知味菜での「十二月六日忘年会」(写真Ⅱ

後列左から深沢素夫、西野保博、片山暉雄、鳴原孝治、高木佑三、長谷川修、埴和道、高橋徹、久保國男、飯田典幸、前列左から熊木宏治君と私、そして竹村義教、高好俊一、小田川敏孝、田部井勇、市倉洋一君。盛り上がる酒席の喧騒の中で、二十年前に読んだ文章が、ふと浮かんできました。

昭和三十五年卒業の皆様と四十八年ぶりに会い、感慨無量でした。本郷での三年間はひたすら野球に集中していたので、皆様と接触することも少なかったと思いますし、勉強も遊びもおとなしい少年でした。

昭和三十五年に入社し、平成十七年三月まで在籍した銀座の広告会社の広報の特集「スポーツで鍛えられた私：学生時代を顧みる」に一文を寄稿し、『青春どのスポーツにもない純粹さ、能力の限界まで出し尽くす肉体的燃焼と緊張させた精神による戦い、私は感動



した。真底胸をえぐられるような感動との出会いを描きたかった。彼らの生活と詩と真実を」と市川昆を感動させた高校野球、確かに私の経験した三年間の野球生活の中にもストイックでフアナティックな青春の温もりが熱く存在していたように思います。懐かしいあの真夏そ

のものようだった少年時代を思うたびにフアナティックなものない男はダメだと強く感じるのです。』と二十数年前に書きました。私の今年のテーマは秋元順子の歌詞ではないが「ときめき」です。仕事は七十歳まで現役として頑張るつもりです。

♪やがて死ぬ 景色も見せず 蝉の声 芭蕉

高校13回(昭和36年卒業)同期会

(齊藤 毅)

昨年十一月十六日(日)高校13回卒業の同窓会をホテルメトロポリタンエドモンドで開催しました。出席者が少なく九名でした(写真)。今回は連絡のとれない同窓にも連絡したく同窓会の開催を新聞に掲載し、呼びかけました。呼びかけがあまり効果はありませんでした。しかし、呼びかけを続けることも必要でしょう。一年ぶりに再会し、募る話に花が咲きました。話が中心はやはり学生時代のことでした。母校もスポーツに進学に躍進している話題を含め話は尽きることがなく盛り上がりま



した。来年の再会を約し解散しました。

高校17回(昭和40年卒業)クラス会

(園部一郎)

平成二十一年二月七日に、昭和四十年に卒業して以来四十四年ぶりにはじめて同窓会を開く事ができました。当時、担任でありました門脇正宏先生を神戸から招待し十一名が正門前に三時に集合することにしました。まず連絡網について四十四年のブランクはやはり大きく当時クラスは五十七名おりました。同窓会事務局のご尽力、友人間の連絡、当時の文集の住所録をたよりに電話局に問いあわせたりして二十名判明しました。

門脇先生は本郷高校退任後、神戸に住まれラグビーの活躍で花園ラグビー場に応援に行き松平頼明校長先生ともお会いしたり、神戸地震を経験しましたが現在もお元気にすごされ社会奉仕活動に活躍されています。四十四年ぶりの本郷高校はすっかり変わってしまい当時の面影は全くありませんでした。わずかに残っていたのは銀杏並木ですが当時はかなり本数があったように思います。少し



伐採したのでしょうか。銀杏並木の左側の体育館もなくなっていました。グラウンドは土か

ら緑一色の素晴らしい人工芝に張り替わりその上でサッカー部が練習していました。

正門で記念写真(写真)を撮影後、巣鴨駅近くの居酒屋で会食し思い出話で盛り上がり二時間の予定が三時間になってしまいました。次回は門脇先生近くの有馬温泉で宿泊をかねてやりましょうと決意がなされ、再会を約束して閉会としました。当日は守衛さんの方にいろいろお世話になりました。当日はありがとうございました。また本郷高校の益々の発展をご祈念申し上げます。

高校20回(昭和43年卒業)郷士会

(関塚正治)

あたたかい眼差し 平成二十一年四月二十六日、郷士会(高校20回生同期会)の『還暦の集い』を巣鴨の養和会で行いました(写真)。当日、恩師の先生八名と会員四十五名が集いました。印象に残ったのは先生方の眼差しでした。親が子を見守るようなあたたかな眼差しに参加者全員時間が過ぎるのも忘れ



歓談、楽しい時間を過ごしました。

佐藤亨先生の挨拶をご紹介します。



小林一茶に『今来たと 顔を並べるつばめかな』という俳句があります。

燕は毎年春になると何千キロも離れた南国から日本にやってきます。しかも自分が生まれ育った家の古巣を忘れずに帰ってくるから感心します。DNAがそうなっているのでしょうが。本能的に古巣の匂いを忘れない動物です。そこで私も一茶の向こうを張って燕の健気さを一句

『忘れ得ぬ古巣の匂ひ つばめ来る』

ここで言う「古巣は」諸君にとつての母校本郷高校です。本郷の匂いといえは「土のグラウンドを誇り」とする校庭に春一番・春二番が吹きまくり、やがて黄塵万丈が本郷学園を覆い、染井を覆ってしまふ。本郷高校の新学期はそこから始まる。放課後になるとクラブ活動の野球・サッカー・ラグビー・陸上のスパイクが地面を蹴り上げるからグラウンド

も堪らない。

窓を開ければ土埃。閉めれば滝の汗。午後
の授業は無残なもの、正に「兵どもの夢の後」
赤銅の逞しい真っ裸の背中から噴き出、まるでトド・河馬の昼寝の光景。土埃と汗に塗れたあの異様な匂いは忘れられない。しかしそれらも、今となれば「懐かしさ」さえ湧いてくる。そこで一句

『汗とはこりの三年の絆 今ここに』

あれから四十年実社会で揉まれ、磨かれ今日このように大成された諸君の姿に接する事が出来たことは元担任としてこんな嬉しい事はありません。四十数年前の教え子の「還暦の集い」に招かれるなんて教師冥利。正に命あつての物種です。

『花は実に 染井につどふ郷士かな』

近年、世の中明日が見えない不安に覆われています。蛇足ながら期待の一句

『暗雲を切り裂けつばめよ 郷士らよ』

と添え、諸君の益々のご健康とご活躍を祈念してお祝いの言葉に代えます。

本郷祭報告

齊藤 毅 (高校 13 回 = 昭和 36 年卒業)

今年も華々しく本郷学園最大のお祭りである本郷祭が九月二十日(土)・二十一日(日)に開催されました。期間中はお天気も良く生徒のご父兄や近隣の高校生、本郷への受験を目指しているお子様ずれのご父兄も多く集まり大変賑やかな学園祭となりました。今年の本郷祭テーマは生徒会長によれば、あえてテーマを設定しない方が生徒全員の自由な創作を促せると考えたとのことでした。そのためユニークな発想のもとで魅力ある企画や作品がたくさんありまし



在校生との歓談も

た。また、長年の念願でありましたグラウンド等が緑一面の人工芝になり、招待試合が行われておりました。我々同窓会も例年のとおり同窓会の歴史資料を中心に展示をおこないました。

早速現役の生徒が多数訪れ同窓会会長、副会長や多くの卒業生と和やかな世代を超えた懇談があり、その後も多くの卒業生の訪問がありました。なかに、亡くなった主人の母校を訪れてみようかと来られた方もおりました。盛会のうちに学園祭も終了し、場所を三菱養和会スポーツセンター内レストランに移し恒例になった懇親会に移りました。

年々参加者が増えており、今年も多数の方が参加され旧交を暖め昔話にも花が咲いたようでした。和やかなうちに終わりを迎え、中学 17 回(昭和 19 年卒業)高野正美先輩の音頭で一本締めを行い、また、来年も多くの卒業生で賑わうことを約して散会しました。



年々参加者が増える同窓会サロン

情報box

北原照久氏（高19回） ―「夢の実現」―テーマに講演



世界でも有数のブリキのおもちゃコレクターとして広く知られる北原照久氏（高校19回＝昭和42年卒業）が、四月十四日、東京・文京区の文京シビックホールで行われた母校の講演会で「夢の実現」をテーマに講演し、後輩たちの今後の活躍に大きな期待をよせた。

横浜に「ブリキのおもちゃ博物館」を開設するなど折々に「夢を」描いて、その夢を実現している北原氏。そのパワーの発火点は本郷時代の「やればできる」との成功体験にあったと語る。勉強が苦手だったが、たまたま試験で六十点を取って先生にほめられたことが自信となり、以来、やればできると自分にいい聞かせ、百点満点をめざして勉強をするようになったという。そして、「勉強をするようになって夢がもてるようになったり」、その後の人生を決定づけていったと強調し、生徒たちを勇気づけていた。

ちなみに、北原氏の少年時代の夢は、当時、人気絶頂の俳優の加山雄三さんと吉永小百合さんに会うことだったそうだ。加山さんとは五十二歳の時、吉永さんとは六十歳になったつい最近、会うことができ、正夢となった。

市倉洋一（高校12回＝昭和35年卒業）

根立光夫氏（高校6回） 闘魂の姿

本学園の野球部出身の根立光夫君（高校6回＝昭和29年卒業）は学習院大学に進み、東都大学野球・一部リーグの「奇跡の優勝」の原動力となった。彼の母校と野球生命をかけた凄まじい「闘魂」の姿が、『神宮の奇跡』（門田隆将著 講談社）第九章を中心に第五章から第十四章に掲載されており、ご紹介いたします。

島崎雄司（高校5回＝昭和27年卒業）



平成二十一年度定期総会報告

日 時…平成二十年六月二十一日

会 場…本郷学園本館二階会議室

出席者数…二十八名

関塚正治副会長（高校20回Ⅱ昭和43年卒業）が司会を務め、総会の開会を告げる。

議事に先立ち山内英夫会長（高校3回Ⅱ昭和26年卒業）があいさつに立ち、同窓会が創設八十年を迎えたことを伝え、母校が近年、東京の進学校に名を連ねるまでに実績を積み重ねていると報告した。また、「同窓会サロン」を千円の会費制にするとともに、会費振り込み手数料を本人負担としたことも報告し、協力を求めた。

引き続き、物故者に黙祷をささげた。
議長を山内会長が務め、議事に入る。

一、**人事案の件** 議長より、杉本繁氏（高校13回Ⅱ昭和36年卒業）を理事に委嘱したとの提案があり、あわせて、健康上の理由で、石井延彦副会長（高校6回Ⅱ昭和29年卒業）

から申し出があった副会長ならびに同窓会推薦による学校法人本郷学園評議員辞任を受理し、新たに南谷修理事（高校8回Ⅱ昭和31年卒業）に副会長を委嘱するとともに、評議員に推薦したとの報告があり、これらを了承した。

二、**平成十九年度事業報告の件** 議長より提案の『銀友』第37号28頁「平成19年度事業報告」について、秋元幹夫副会長（高校7回Ⅱ昭和30年卒業）から報告があり、全会一致で承認した。

三、**平成十九年度決算報告の件** 議長より提案の『銀友』第37号28頁「平成19年度決算書」について、寺田正美副会長（高校24回Ⅱ昭和47年卒業）から報告があり、全会一致で承認した。

四、**平成十九年度監査報告の件** 議長の指名により篠喜三郎監事（高校6回Ⅱ昭和29年卒業）が、高田隆義監事（高校15回Ⅱ昭和

市倉 洋一（高校12回Ⅱ昭和35年卒業）

38年卒業）とともに関塚副会長立ち会ひのもと、四月十一日（金）に平成19年度会計の監査を厳正に行なつたと報告し、これを了承した。

五、**平成二十年度事業計画の件** 議長より提案の『銀友』第37号29頁「平成20年度事業計画案」について、秋元副会長から説明があり、全会一致で承認した。

六、**平成二十年度予算案の件** 議長より提案の『銀友』第37号29頁「平成20年度予算案」について、寺田副会長から説明があり、全会一致で承認した。

七、**各担務事業報告ならびに計画案の件** 議長の指名により、ホームページ管理、同窓会誌「銀友」発行、同窓会活性化対策の担当者から報告があり、それぞれ了承した。

以上にて議事を終了する。

平成20年度事業報告

自・平成20年4月1日 至・平成21年3月31日

三月十九日	三月十四日	三月十四日	二月二十一日	一月十七日	〔平成二十一年〕	十二月二十日	十一月二十六日	十一月十五日	十月十八日	九月二十日	九月十三日	七月十九日	六月二十一日	五月下旬	五月十七日	四月十九日	四月七日	〔平成二十年〕
中学卒業式（会長・副会長出席）	運営委員会（同窓会資料室）	高校卒業式（会長・副会長出席）	運営委員会（同窓会資料室）	理事会・新年会（本校会議室・養和会）		運営委員会（同窓会資料室）	学園側との交流会	運営委員会（同窓会資料室）	運営委員会（同窓会資料室）	本郷祭出展 同窓会サロン開設（養和会）	体育祭見学・運営委員会（同窓会資料室）	運営委員会（同窓会資料室）	定期総会・懇親会（本校会議室・養和会）	銀友発送	第一回成人の集い（養和会）	運営委員会（同窓会資料室）	理事会・懇親会（本校会議室・養和会）	高校・中学入学式（会長・副会長出席）

平成20年度決算書

自・平成20年4月1日 至・平成21年3月31日

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	7,181,294	卒業生記念品費	196,500
会費（1,169名）	2,787,780	同窓会サロン費	229,090
入金金（平成20年度320名）	960,000	本郷祭出展費	99,545
受取利息	8,354	印刷費（一般）	63,000
第1回成人の集い（学園側負担金）	242,767	印刷費（銀友14,000部）	1,391,247
第1回成人の集い会費	97,000	発送費（銀友12,890通）	771,466
寄付金	10,000	発送手数料（銀友）	101,508
同窓会サロン会費	79,000	銀友編集取材費	37,650
		通信費（HPプロバイダー）	44,100
		通信費（一般）	66,456
		名簿管理保守費保守費	197,579
		事務消耗品費	16,150
		会費郵便振替手数料	1,080
		振込手数料	6,195
		対学校交流費	51,150
		運営委員会交通費補助費	93,000
		第1回成人の集い費	493,369
		第2回成人の集い費	30,711
		グラウンド完成記念植樹費	150,000
		クラブ支援金	30,000
		次年度繰越金	7,296,399
合計	11,366,195	合計	11,366,195

現預金明細

現金	204,455		
郵便貯金	5,366,032	本郷学園同窓会 会長	山内英夫
振替預金	244,900	本郷学園同窓会 会計	寺田正美
三菱東京UFJ普通預金	1,481,012	本郷学園同窓会 監事	篠喜三郎
合計	7,296,399	本郷学園同窓会 監事	高田隆義

平成21年度事業計画案

自・平成21年4月1日 至・平成22年3月31日

三月二十日	運営委員会（同窓会資料室）	三月十九日	中学卒業式（会長・副会長出席）	三月十五日	高校卒業式（会長・副会長出席）	二月二十日	運営委員会（同窓会資料室）	一月十六日	理事会・新年会（本校会議室・養和会）	四月七日	高校・中学入学式（会長・副会長出席）	四月十八日	理事会（本校会議室）	五月十六日	運営委員会（同窓会資料室）	五月二十三日	第二回成人の集い（養和会）	五月下旬	銀友発送	六月二十日	定期総会・懇親会（本校会議室・養和会）	七月十八日	運営委員会（同窓会資料室）	九月十三日	体育祭見学・運営委員会（同窓会資料室）	九月十九日 二十日	本郷祭出展 同窓会サロン開設（養和会）	十月十七日	運営委員会（同窓会資料室）	十一月二十一日	運営委員会（同窓会資料室）	十一月下旬	学園側との交流会	十二月十九日	運営委員会（同窓会資料室）	〈平成二十二年〉	
-------	---------------	-------	-----------------	-------	-----------------	-------	---------------	-------	--------------------	------	--------------------	-------	------------	-------	---------------	--------	---------------	------	------	-------	---------------------	-------	---------------	-------	---------------------	--------------	------------------------	-------	---------------	---------	---------------	-------	----------	--------	---------------	----------	--

平成21年度予算案

自・平成21年4月1日 至・平成22年3月31日

収入の部		支出の部	
科目	予算	科目	予算
前年度繰越金	7,296,399	卒業生記念品費	200,000
会費（1,500名）	3,000,000	同窓会サロン費	250,000
入会金（平成21年度316名）	948,000	本郷祭出展費	50,000
受取利息	9,000	印刷費（一般）	70,000
第2回成人の集い（学園側負担金）	250,000	印刷費（銀友）	1,500,000
第2回成人の集い会費	100,000	発送費（銀友）	800,000
同窓会サロン会費	80,000	発送手数料（銀友）	110,000
		銀友編集取材費	20,000
		通信費（HPプロバイダー）	20,000
		通信費（一般）	60,000
		名簿管理保守費	250,000
		事務消耗品費	5,000
		振込手数料	7,000
		対学校交流費	60,000
		運営委員会交通費補助費	120,000
		第2回成人の集い費	600,000
		第3回成人の集い費	40,000
		同期会活性化対策費	100,000
		予備費	100,000
		次年度繰越金	7,319,399
合計	11,683,399	合計	11,683,399

本郷学園同窓会役員

(顧問、相談役を含む)

※高18回の小倉理事が学園との窓口になります。

会長	山内 英夫	高3回	昭和26年卒	理事	前田 和男	中18回	昭和20年卒	理事	梶 徳治	高20回	昭和43年卒
副会長	玉川 昭	中19回	昭和20年卒	理事	野木 惣市	中19回	昭和20年卒	理事	蛭田 要司	高20回	昭和43年卒
副会長	望月 敏郎	高3回	昭和26年卒	理事	田島 利男	中20回	昭和22年卒	理事	富岡 俊明	高21回	昭和44年卒
副会長	秋元 幹夫	高7回	昭和30年卒	理事	佐治 栄一	高1回	昭和24年卒	理事	中田 守喜	高21回	昭和44年卒
副会長	南谷 修	高8回	昭和31年卒	理事	地曳 秀雄	高3回	昭和26年卒	理事	池野 直樹	高23回	昭和46年卒
副会長	市倉 洋一	高12回	昭和35年卒	理事	栗原廣太郎	高6回	昭和29年卒	理事	野田 悠二	高24回	昭和47年卒
副会長	関塚 正治	高20回	昭和43年卒	理事	小室 能広	高8回	昭和31年卒	理事	千野 邦雄	高25回	昭和48年卒
副会長	田中 良一	高24回	昭和47年卒	理事	新澤 米次	高8回	昭和31年卒	理事	立入 健司	高26回	昭和49年卒
副会長	寺田 正美	高24回	昭和47年卒	理事	井上榮三郎	高10回	昭和33年卒	理事	伊藤 豊	高26回	昭和49年卒
副会長	平野 隆之	高26回	昭和49年卒	理事	岡本 信也	高10回	昭和33年卒	理事	佐藤 修一	高31回	昭和54年卒
監事	篠 喜三郎	高6回	昭和29年卒	理事	久保 國男	高12回	昭和35年卒	理事	遠藤 千秋	高33回	昭和56年卒
監事	高田 隆義	高15回	昭和38年卒	理事	熊木 宏治	高12回	昭和35年卒	理事	山本 一博	高34回	昭和57年卒
顧問	中村 允	中13回	昭和15年卒	理事	山本 達雄	高12回	昭和35年卒	理事	佐藤 和明	高39回	昭和62年卒
相談役	伊東 龍昭	中10回	昭和12年卒	理事	阿出川信夫	高13回	昭和36年卒	理事	移川 真男	高42回	平成2年卒
相談役	奥平 保正	中15回	昭和17年卒	理事	斉藤 毅	高13回	昭和36年卒	理事	下村 大樹	高45回	平成5年卒
相談役	宮本 幸雄	中15回	昭和17年卒	理事	杉本 繁	校13回	昭和36年卒	理事	野村 竜太	高46回	平成6年卒
相談役	植松 隆吉	高3回	昭和26年卒	理事	池田 雅彦	高14回	昭和37年卒	理事	金尾晋一郎	高58回	平成18年卒
理事	高野 正美	中17回	昭和19年卒	理事	園部 一郎	高17回	昭和40年卒	理事	御子柴 怜志	高58回	平成18年卒
理事	岡田 光正	中18回	昭和20年卒	理事	小倉 義雄	高18回	昭和41年卒	理事	黒部 直樹	高58回	平成18年卒

学園だより

■平成21年入試結果

	在籍	4年制大	短期・留學	専門学校	就職	進路決定者	進路決定率
進学コース	279	170	0	1	0	171	61.3%
特進コース	41	32	0	0	0	32	78.0%
20年度卒業生	320	202	0	1	0	203	63.4%

大学名	現	浪	計
国公立			
東京	3	0	3
京都	1	0	1
東京工業	4	3	7
北海道	1	2	3
東北	0	2	2
名古屋	0	1	1
大阪	1	0	1
千葉	2	1	3
筑波	2	0	2
首都大東京	7	5	12
横浜国立	3	2	5
埼玉	2	1	3
高知	1	0	1
山口	1	0	1
浜松医科	1	0	1
山梨	0	2	2
電気通信	6	2	8
東京農工	7	2	9
茨城	1	0	1
東京学芸	4	0	4
東京海洋	0	1	1
秋田	0	1	1
横浜市立	1	3	4
佐賀	0	1	1
宇都宮	1	0	1
防衛	3	0	3
防衛医科	2	0	2
国公立合計	54	29	83
私立			
早稲田	52	38	90
慶應義塾	25	14	39
上智	19	4	23
東京理科	67	26	93
明治	69	40	109
青山学院	16	8	24
立教	30	16	46
中央	38	20	58
法政	28	12	40
学習院	16	12	28

国際基督教	1	1	2
成蹊	11	4	15
成城	3	3	6
日本	52	18	70
東洋	5	9	14
駒澤	6	0	6
専修	7	5	12
明治学院	5	7	12
東京経済	2	2	4
國學院	8	1	9
東京都市	5	0	5
工学院	4	1	5
東京電機	19	4	23
東京農業	15	2	17
東京工科	0	1	1
北里	17	2	19
明治薬科	2	1	3
東京薬科	2	3	5
星薬科	2	1	3
日本歯科	0	1	1
東京歯科	0	1	1
昭和薬科	1	1	2
昭和	1	1	2
東京医科	1	0	1
東邦	5	3	8
東京慈恵会医科	2	0	2
聖マリアンナ医科	0	2	2
日本医科	1	0	1
芝浦工業	44	6	50
獨協医科	1	2	3
愛知医科	0	1	1
埼玉医科	1	4	5
帝京	4	0	4
立命館	5	4	9
同志社	1	3	4
千葉経済	1	0	1
東京学芸	3	0	3
大東文化	1	1	2
関西学院	1	1	2
国士館	3	1	4
城西	3	0	3

文教	2	1	3
神奈川	2	0	2
千葉工業	4	0	4
武蔵野	0	1	1
玉川	4	1	5
拓殖	2	1	3
麻布	0	1	1
日本獣医生命科学	1	1	2
亜細亜	1	0	1
杏林	1	2	3
高崎健康福祉	1	0	1
多摩美術	1	0	1
帝京平成	1	0	1
東海	1	0	1
東京聖栄	1	0	1
二松学舎	1	0	1
白梅学園	1	0	1
武蔵野美術	2	2	4
文京学院	1	1	2
豊田工業	1	0	1
酪農学園	1	2	3
立正	2	5	7
立命館アジア太平洋	1	0	1
獨協	4	0	4
関東学院	0	1	1
甲南	0	1	1
駒沢	0	2	2
秀明	0	1	1
城西国際	0	1	1
千葉科学	0	1	1
東京造形	0	1	1
新潟薬科	0	1	1
日本薬科	0	1	1
藤田保健医療	0	1	1
藤田保健衛生	0	1	1
文京	0	1	1
武蔵	0	3	3
明星	0	1	1
目白	0	1	1
横浜薬科	0	1	1
私立合計	414	219	633

■平成二十年度クラブ活動状況
高等学校

《ラグビー部》

- 東京都春季大会4位
- 第56回関東大会出場

- 第88回全国高校ラグビーフットボール大会
東京都第1地区準優勝

《柔道部》

- 関東大会団体戦支部ベスト8
- インターハイ団体戦支部ベスト8
都大会出場

《剣道部》

- 雄飛杯争奪剣道大会3位
- 東京都春季大会 準優勝
- 第55回関東高等学校剣道大会出場

- 全国高校大会東京都予選 団体戦準優勝
- 東京都秋季大会団体3位
- 東京都第三支部大会団体優勝

《ボウリング部》

- 東京都ジュニアボウリング選手権大会5位
- JOCジュニアオリンピックカップ
全日本高校ボウリング選手権 斎藤 眞秀
出場

- 全国高校対抗ボウリング選手権 東京予選
3位
- 全国高校対抗ボウリング選手権出場

- オール関東ジュニアボウリングトーナメント
ト出場

《水泳部》

- インターハイ四百mリレー決勝8位。イン
ターハイ予選出場四百m自由形、四百mリ
レー

《サッカー部》

- 関東高校サッカー大会東京都予選東京ベスト16
- 高校総合体育大会東京都予選東京ベスト16
《陸上部》

- 東京都高等学校選手権大会百m3年1位、
五千m3年5位、四百mH3年2位、4×
百m2位、4×四百m3位
- 第60回東京都高校新人選手権大会五千m6
位、走高跳6位

《バドミントン部》

- 東京都新人大会 ベスト16

《硬式野球部》

- 春季大会第19ブロック優勝、都大会進出

《フェンシング部》

- 関東大会東京予選 団体戦3位
団体・個人 関東大会出場

《マイコン部》

- 第28回全国IT、簿記選手権大会 敢闘賞
優秀賞

《漫画劇画部》

- 全国高等学校漫画選手権大会第17回まんが
甲子園全国大会出場、ドリムドライブ賞

《軽音楽部》

- 東京都軽音連盟主催「第1回東京都高等学
校対抗バンドフェスティバル」優勝

《科学部》

- 「日本物理学会Jrセッション」で奨励賞受賞
中学3年生
- 「第9回日経STOCKリーグ」中学部門
賞受賞

■平成二十年度退職教職員

- 体育科 大浦 一雄
- 英語科 大宮 完太
- 国語科 中山 博志
- 職員 千葉 昌男

本郷学園同窓会会費納入者一覽

中03回3青柳 志郎・高市 章・野本三千雄

中04回2亀甲 勲・沢部 政直

中05回2石井 千里・高山 三郎

中06回1堀江 勇治

中07回3笹岡 武徳・篠崎 一弥・藤田 悦次

中08回6浅井 美雄・石坂 岩雄・鈴木 貞夫
谷崎 丈夫。竹田 亨・長嶺金次郎

中09回3有賀 活郎・大塚秀太郎・佐々木岸太郎

中10回8猪木 圀臣・大多和利治・大塚 信男
久住 進一・後藤 恒久・小泉 進

永井 吉男・毛利 正利

中11回9市川 雄一・上田 義雄・木村 善男
黒川 興文・高橋 耕一・塚田 芳雄

中野 武正・水谷 郁夫・山岸 勝美

中12回9新井 洗・石原 豊英・河北 展生
劔持 行雄・坂口 甫・吉田 三男

吉田 正吾・和氣 秀夫・小松 昭

中13回13阿部敏一郎・石原 清助・石川 正達
太田 恭二・景山 正隆・黒鳥 四朗
小森 為郎・鈴木 和男・橋 正道
寺門 務・永田 三郎・中村 允

山口 一弘

中14回10奥田 富雄・尾立 維久・佐藤 三良
鈴木 一郎・多賀 一郎・西村 三郎
藤井 稔・堀江 伸美・森本 三郎
古沢 修

中15回21阿部 敏秋・新井 文一・奥平 保正
荻原 久雄・太田新八郎・勝 敬二
栗原 重雄・蛭合 邦夫・高沢 俊
高田 好一・竹中 節男・土屋 健人

中村 美登・根本 卓光・野村 秀二
萩原 友郎・畑 定・松本 八郎

宮本 幸雄・山口 富三・吉田 正

中16回15大沢 欽一・大津 泰三・加瀬 量次
木村 宮造・木村 康夫・小永井 暹
白井 明・高橋 璋守・田中 凡夫
中野 博・野尻 利祐・羽根孝太郎
樋代 幸雄・森 恭久・鶴見 俊一

中17回30阿出川昭治・按田仁三郎・秋田 禮一
乙部 邦壽・小川 清・小倉 高規
大村 雅通・大野 肇・尾前 広
佐藤 元徳・斉田 貢一・下村多氣夫
清水 英夫・高野 正美・田中 章治
田中 稔・田中 裕一・立山 文男
千葉 孝男・角折 幸輝・寺口有喜公
中山 茂・深沢 潤・保坂 忠夫
益田 泰彦・松谷 正・水田 裕昭
山口 登・藤 清平・鈴木 隆

中17回30阿出川昭治・按田仁三郎・秋田 禮一

乙部 邦壽・小川 清・小倉 高規

大村 雅通・大野 肇・尾前 広

佐藤 元徳・斉田 貢一・下村多氣夫

清水 英夫・高野 正美・田中 章治

田中 稔・田中 裕一・立山 文男

中18回52愛

利三・新井 義雄・新井 博文
將・磯川 清和・今里 隆

滝沢 伸行・竹本 三男・永井 四郎
西村 努・野木 惣市・長谷川 広司
保谷 六郎・増田 速水・室久敏 三郎
山本 巖・築 尚・横田 文男

高02回12 井原 俊郎・坂野 重一・櫻井 泰
稻田 稔・清水 真太郎・豊嶋 敬司
中村 嘉宏・西島 成一・羽生 銚佑
浜野 清隆・廣瀨 六郎・小林 明

石田 順嗣・宇田川 孝一・榎本 輯次
岡田 光正・大原 功・金子 佐多美

菊地 熙夫・北村 廣三郎・北堀 幸雄
栗山 春雄・後藤 良一・佐々木 一昭

高03回30 秋間 政・石川 達夫・石塚 豊
植松 隆吉・遠藤 巨良・奥平 博一
大槻 一雄・大部 淳夫・北見 尹
志野原 三津夫・合田 平・小浜 卓司
小平 光郎・佐々木 三郎・坂田 実
地曳 秀雄・高橋 正光・中島 正次郎
長崎 一・根本 強・野口 多喜男
廣瀨 末治・平子 浅雄・前田 善男
光安 伸夫・望月 敏郎・山口 洋司
山内 英夫・吉田 孝光・渡辺 五郎

菅野 英夫・菅野 武司・鈴木 充
鈴木 卓三・瀨川 昌男・高橋 三郎
高橋 操六・高桑 益行・鳥飼 義二
富山 栄・豊崎 益夫・友安 昭治
西野 重義・中山 守次・中山 正
仲摩 邦夫・野本 昭・長谷川 忠也
馬場 隆・服部 星之助・服部 定善
榎垣 順次・藤田 弘治・松廣 泰夫
松田 裕・宮田 昭平・武藤 泰夫
森 正徳・山田 卓治・渡部 豊一
渡辺 信夫

中21回18 阿知波 健・板倉 厚・大下 晃
大矢 和夫・柄澤 喜市・古門 敏郎
小林 國雄・鈴木 秀雄・田村 義雄
田中 一好・外内 悦雄・中林 商蔵
二宮 重恒・古澤 秀信・星野 昌弘
横澤 邦彦・小沼 一雄・田中 昭二

高04回5 西江 峰夫・八嶋 政臣・渡辺 武男
佐々木 直剛・廣瀨 澄

中19回30 阿出川 義男・新井 忠彦・浅原 義久
石井 博夫・板倉 一典・岡田 貢一
太田 健三・大久保 武司・大野 勝弘
貝塚 明雄・柏原 英一・菊田 勇
下川 敬朗・重永 政夫・鈴木 孝一
玉川 昭・高橋 實・高橋 昭彌

中20回22 市川 恒雄・西村 和男・大屋 忠
大塚 康夫・金澤 一朗・倉田 桂二郎
鈴木 健之・田島 利男・鶴岡 俊雄
土肥 隆・中島 敬太郎・羽山 健児
橋本 公成・久永 幸隆・藤林 晃
皆川 敬次・山下 保次・横山 盛
市川 保・菊入 喜三郎・鈴木 三好
藤原 利彦

高05回10 井沢 清・市村 近・梶野 伸二
片桐 幸一郎・島崎 雄司・谷川 洋明
宮坂 貢司・山崎 利恭・影山 弘
前田 武彦

高01回2 相川 厚・堀井 幸次郎

中22回5 井筒 千秋・須田 光夫・高田 政雄
野々村 長三・福沢 昇

高06回44 伊藤 洋之助・稻垣 泰輔・岩崎 雄蔵

石井 延彦・池内 春俊・内田 孝二	渡邊 衛・渡邊 茂明	岡田 勲・加毛 隆・方波見 茂
奥村 茂・小形 祐一・小椋 一	高09回10 芥川 定義・江原森太郎・田辺 博昭	齊藤 毅・清川 洋吉・越路 往輝
小野 耕一・神崎 俊彰・柏村喜徳郎	川崎 孝・小林 常甫・島村 泰夫	篠田 彬・杉本 繁・中村 久
久保田義喜・栗原廣太郎・蔵田 尚	田中 好明・西江 正晴・比企 正憲	野間口正機・渡辺 則綱
後藤 順夫・小林 金則・小林 秀行	吉田 穆	高14回2 芦原 健一・篠田 武夫
佐治 義雄・佐瀬 友貞・篠 喜三郎	高10回16 青木 弘三・井上栄三郎・岡本 信也	高15回9 新 安雄・櫻居 義臣・杉山 雅一
霜越 信・鈴木惣一郎・関 貞三	小川 紘・亀井 俊一・上岡 光男	杉山 勝正・高橋 史興・高田 隆義
仙波 忠志・高橋民次郎・高木 桂三	小島 友宏・田中 秀明・津原 輝男	蒔田 稔二・峯岸 桂介・森坂 展行
谷澤 文雄・竹内 晋一・津久田愛之助	中河 秀行・林田 有弘・福住 輝男	高16回3 上島 敏幸・小池 昭久・田村 邦光
中山 寿夫・中村 義一・中里 盛次	茂出木義雄・山崎 昇・八木橋 実	高17回7 池田 明・小野寺良雄・小出 邦敏
根立 光夫・松ヶ谷利康・松坂 忠明	渡部 長幸	高18回12 浅井 俊一・板倉日出男・小倉 義雄
松本 易夫・松本 幸司・前田 明男	高11回3 太田 善夫・小池 弘祐・関口 楯雄	高12回20 市倉 洋一・飯田 典幸・大梶 勝英
渡辺 勝・渡辺 昭義・香森 哲也	高13回14 阿出川信夫・相川 清・明石 安邦	高19回9 秋葉 和秀・有馬壮一郎・石原 崇光
高橋 利彰・市川錦次郎	高12回20 市倉 洋一・飯田 典幸・大梶 勝英	下川 薫・中村 博・沼尻 崇光
高07回9 安食 僖三・秋元 幹夫・青木 輝男	高11回3 太田 善夫・小池 弘祐・関口 楯雄	長谷川 実・吉倉 幸信・北原 照久
井島佳二郎・上岡 延好・島崎 幸人	高17回7 池田 明・小野寺良雄・小出 邦敏	
高橋 三郎・益川 雄治・山内 周	高18回12 浅井 俊一・板倉日出男・小倉 義雄	
高08回20 稻葉 研治・海老原 博・小幡 昌久	高18回12 浅井 俊一・板倉日出男・小倉 義雄	
小野寺 博・大野 俊広・尾島 圭亮	高12回20 市倉 洋一・飯田 典幸・大梶 勝英	
金子 隆一・木塚 順夫・小室 能広	高12回20 市倉 洋一・飯田 典幸・大梶 勝英	
新澤 米次・勅使河原宏記・長澤 秀幸	高12回20 市倉 洋一・飯田 典幸・大梶 勝英	
深澤 宏之・藤巻 健三・藤本 昭夫	高12回20 市倉 洋一・飯田 典幸・大梶 勝英	
南谷 修・山本 賢一・吉田 光男	高12回20 市倉 洋一・飯田 典幸・大梶 勝英	

高24回9石原 田中 良一・寺田 正美・野田 悠二	高23回8池野 篠田 功・吉嶋 一雄	高22回12石井 岡村 光雄・大恵 敏明・遠藤 達哉	高21回19荒井 黒杉 章登・岡野 繁・菊地 正美	高20回15太田 梶 徳治・小林 基展・酒井 孝一
涉・掛川 敏行・進藤 久幸	直樹・太田 治・鹿島 茂夫	隆・榎沢 淑行・加納 耕助	壽博・小松 健介・砂田 俊雄	正明・大塚 勝美・大野 英治
松井	高28回11井口 黒沢 隆・加藤 好男・上谷内純一	高27回7安部 高橋 昌治・稲垣 登・河野 哲史	高26回20伊藤 岩崎 正彦・伊藤 豊・稲田 俊和	高25回13阿部 佐野 益美・梅田 亨・栗山 孝治
須藤 博忠・菅原 義則・田中 幸彦	黒沢 邦夫・小林 博貴・須崎 幸彦	高橋 伸治・並木 嗣男・原田 俊幸	相模 明男・柴 安弘・杉浦 健晶	千野 邦雄・中田 宗喜・長谷川 幸雄
和弘	和弘	清人	知光・笹沼 博之	登・吉田 徳義
高35回12藤本由紀夫・鈴木 徹・坂宮 栄一	高34回6幸田 平澤 淳・宮崎 雄一・渡辺 欣也	高33回16青木 岩田 和夫・天沼 嘉章・磯田 浩之	高32回6江口 竹内 博輝・林 敏明・森 真一郎	高31回10石坪 鈴木 英貴・佐藤 修一・富永 浩伸
吉田 秀樹	西野 嘉明・福島 浩・吉田 浩久	小松 陽・齋藤 卓・高橋 秀明	橋本 尚弘・山田 隆・山畑 邦裕	高30回2宮本 茂治・川崎 雅弘
飯泉 彰裕・菅野 弘一・丹野 修辞	飯泉 彰裕・菅野 弘一・丹野 修辞	横山 鉄夫・渡辺 嘉伸	吉田 法夫	高29回8安住 高弘・伊東 史郎・石塚 実

高40回5日枝 石川 徳宗・田畑 孝志・山本 高史	高39回5加藤 篠原 史孝・田畑 亨 実・寺山 義泰	高38回7染谷 吉本 光博・岩城 俊一・飯塚 真啓 中尾 政則	高37回15荒井 高橋 二哉・根岸 延存・小澤 秀昭 土田 賢一・秋山 竹史・横川 高樹 城 和夫・前沢 智敏・矢島 俊之 小川 将司・藤平 克彦・荒木 健一	高36回13糸谷 加藤 吉郎・下鳥 豊・山田 晴一 田中 正二・五十嵐裕太・川人 英生 田邊 賢一・松本 圭一・中上 玄文 直井 正人	高41回14小掛慎太郎・小松 直人・岡田 博 森田 幸夫・井田 七海・小池 武次 戸張 元・野口 貴洋・増岡 武宏	高42回23花田 憲彦・有澤 知彦・水野 哲行 三村 淳悟・田村 裕一・山本 篤廣 田村 伸也・東尾 隆之・吉川 秀一 藤原 潤一・森 泰介・大澤 清 高山 慎・藤井 亨・藤田 恵輔 石本健太郎・齋川 俊行・塩家 吹雪 澁屋 史明	高43回16千代延 尚・萩原 孝明・伊藤 正規 松本 祐一・戸塚 太一・上原 弘行 中田 一郎・針谷 寿紀・吉田 永弘 中村 步希・山野邊康史・加藤英四郎 中村 剛・今井 仁・野口 拓栄 内山 義治	高44回9西 邦之・北村 彰浩・久保村 豊 丹波 宏崇・溝口 英生・藤田 啓 浅野 裕之・津田 達広・芦原 健雄	高45回8赤田 正樹・青木 和久・遊間 英孝 中野 隆之・中山 秀一・斉田 拓也 田代憲太郎・近藤 正徳	高46回10柴崎 直樹・金子 隆・鈴木 健一 増田 淳・山田 洋一・荒井 昌之 長谷川浩一・渡邊 信貴・小林 永芳 砂泊光一郎	高47回10青江 覺峰・大森慎太郎・秀野 泰隆 柳瀬 崇博・北原 宏晃・香取 範充 斉藤 伸之・須原 秀人・今氏 照樹 恩田 貴康	高48回20高橋 圭祐・福井 雅啓・山中 弘毅 橋本 直人・池田 斉・稻生雄一郎 徳永 理利・中村 織雄・増田 健次 天池 泰仁・増田 望・林 誠吾 福井 健史・安井 督・上野 光信 坂上 聡志・渡邊 龍秋・中溝 健晴 近藤 大介・山田 元文	高49回11天池 泰仁・増田 望・林 誠吾 福井 健史・安井 督・上野 光信 坂上 聡志・渡邊 龍秋・中溝 健晴	高40回5日枝 石川 徳宗・田畑 孝志・山本 高史
------------------------------	-------------------------------	---------------------------------------	---	---	---	---	--	--	--	--	--	---	--	------------------------------

近藤 大介・山田 元文

高50回7 浅岡 祐介・宇田川 太・島村 有希

乾 嘉宏・清水 貴寛・新村 光央

高51回22 天野 秀忠・秋田 真孝・梶野 貴經

白石 佑一・立澤 広平・佐藤 英明

西岡 新平・福田 哲也・新井 亮輔

中田 孝宏・荒川 桂輔・滝澤 一晴

中澤 利幸・橋爪 雄志・山田 道夫

乙丸 貴史・染谷 快典・丹羽 大輔

古島 剛・皆川 裕司・若西 良介

植村 典和

高52回20 関澤 泰明・高橋 智久・成瀬 隼人

長谷川 智洋・塩畑 太一・諏佐 肇

藤本 耕平・向井 崇平・黒田 佳彦

高53回26 北島 康介・渡邊 昌一・今井 秀星

手塚 悦生・水越 泰平・藤田 豊

吉田 朋大・栗山 孝幸・中井 秀昌

福森 洋輔・奥山 雄太・齊藤 秀雄

長南 基・大塚 憲・小島 将敬

小藤 寛之・田中 義人・中村 旭

日谷 堯・内原 嘉昭・後藤 泰治

立澤 伸也・醍醐 宏治・香積 知明

佐藤 達哉・高波 佑介

高54回30 栗野 耕平・石澤 慧・西島 章夫

福田 亮・柳 宗明・小谷 泰介

高橋 祐磨・吉田 繁幸・大澤 思朗

糸川 拓真・大森 秀昭・辰巳 裕紀

横山 佳之・鶴木 学・高田 誠

中村 泰紀・小泉 孝人・佐藤 寛之

白土 峰大・土橋 篤仁・小松嵩志朗

富富 崇義・大塚 真弘・金子 駿太

菊地 史朗・朽名 正道・岩村 淳弘

白坂 健太・高井 俊宏・富塚賢太郎

荻嶋 博人・河野 謙司・船渡川 哲

松田 将吾・川田 大助・小池 篤史

菅原 一輝・本田 篤史・山賀 雄介

金山 寛毅・小高 真樹・卯坂潤一郎

江利川 堯・後藤 隆徳・澤山 慶博

中田 義元・長谷川裕之・福岡 卓也

布施 健一・細谷 孝伸・山本 崇史

木内 健義

高56回26 岩村 淳弘・白坂 健太・高井 俊宏

富塚賢太郎・荻嶋 博人・河野 謙司

船渡川 哲・松田 将吾・川田 大助

早川 健斗・藻利 大地・吉田 峻洋
谷口 遼・寺嶋 一祐・藤田 盛吾
安藤 裕哉・砂川 大茂・北森 雅雄
関 洋亮・石村 賢・進野 裕規
畑 佑樹・藤森 達也

高58回30石上 将大・上久保一輝・鈴木 秀太

池田 一樹・伊田 和平・平田 竹志
松島 和人・淡路 正志・並木 幹夫
秋本 悠樹・江刺 利彦・田中 義輝
藤野 義之・木下 和俊・高橋 栄之
高橋 伊郎・多田 邦生・吉川 直佑
清水 大・広瀬 和也・新井 晶
梅田 翔太・中野 裕介・宮沢 祐太
横山 広樹・小笠 貴嗣・黒田 健斗
土屋 厚人・仲島 孔明・益田 晃太

高59回56宇田川翔平・金弘 令・仲川 泰博

鷺澤 仁志・池田哲之輔・日下 陽平
小泉 隼人・古賀 大智・野中裕太郎
水谷 大志・山本 勝章・大野 太郎
冲 登・加藤 竜太・鈴木 啓介
鈴木 秀徳・福島 寛之・三田 直樹
村山 智・山下 雄大・海野 直樹
木甲斐 智明・関根 大介・高橋 遼平

高60回82

武井 良祐・橋岡 佑樹・林 輪太郎
古野 貴大・真家 進吾・松本 康佑
柳原 孝吉・岩原 淳・久保田和行
高木 悠年・田邊 拓・辻 健太郎
長谷川 誠・植田 高啓・宇山 宗孝
小堀 一・篠原 利典・山口 達也
林 文昭・浅見 洋佑・長田 勝也
鈴木 雄介・田中 祐輔・新田 剛太
西野 晃司・春山 輝巨・村川 剛太
長谷川 喜教・宮坂 昇吾・庄司 賀範
杉山 貴大・吉實 大輔

上田 賢太・大築 一矢・折原 和仁
佐藤 明太・豊原 貴俊・新妻 康朗
福田 修也・宮崎 聡樹・矢吹 卓大
由利 卓哉・渡邊 康平・稲生 謙吾
粕谷 尚弘・高井 航・伊田 幸平
加藤 明裕・川合 啓介・久保 展昭
澁江 佳樹・白石 亮・新島 裕二
星野 慎太郎・柳沼 桂甫・吉田 悠人
渡邊 康太・浅井 佑真・池田 貴一
今井 克樹・久保田 有紀・小林 英資
小松 佑輝・陶山 竜作・関根 聡
曾谷 祐貴・武内 潤一・津田 玲生
長尾 新・松丸 大輝・吉田 玲生

浅野 泰寛・飯田 大也・佐藤 智
島 大樹・鳥居 暁・中村 聡志
鳴澤 岳・丸山 央貴・泉 圭一
口岩 大騎・佐野 純平・清水 宏
醍醐龍之介・千熊 悠太・井上 勇人
岩崎晃太郎・小澤駿一郎・鎌田 弘明
岸 拓真・清村 翔・高 知輝
戸澤 圭太・西村 友吾・箱山 智之
福山 俊治・正木 直哉・山幡 琢也
小幡 将久・熊谷 智大・多良 洋希
中山 雄平・美王 優里・伊藤 光平
近江 賢人・大野 拓真・片山 英雄
黒田直生人・佐々木佑輔・虎井 祐介
松倉 智史・峯岸 賢史・山本 陸
吉田 成輝

謹んでご冥福をお祈り致します

同窓会にご連絡のあった方のみ掲載しております

中01回松本	博衛	中02回三輪	正夫	中04回杉本	金馬
中05回早川	二部	中05回吉藤	卯三郎	中06回大和	禎人
中06回山本	秀明	中07回伊藤	秀朗	中07回佐藤	忠夫
中07回藤田	悦次	中08回浅井	美雄	中08回永田	生一
中09回合場	信次	中09回網谷	英二	中09回伊藤	巖
中09回佐々木岸太郎	龍昭	中09回長島	照雄	中09回畑	正義
中10回伊藤	健	中11回荒井	良樹	中11回青野	廉
中11回久野	龍	中11回濱倉	大全	中12回新井	洗
中12回大塚	高敏	中12回由井	洋四郎	中14回佐藤	三良
中14回高山	勝喜	中14回町田	健雄	中14回古沢	修
中15回工藤	幸雄	中15回田村	興造	中17回角折	幸輝
中17回日名	堅祐	中17回井森	宏	中18回井樽	孝
中18回植田	茂	中18回富山	栄	中19回吉田	祐紀
中20回飯塚	達道	中20回神山	智久	中20回長尾	明治
中21回本田	晃	高02回井原	俊郎	高03回伊沢	晴彦
高03回内田	周一	高03回中村	信三	高03回小林	一衛
高05回中林	正昭	高06回石井	延彦	高06回松坂	忠明
高08回永元	正一	高08回中野	修	高08回原	信正
高09回鶴沢	速雄	高10回牛腸	礼司	高10回佐藤	昌紀
高10回妹尾	謙治	高10回塚原	静夫	高10回坪井	靖夫
高10回宮崎	克己	高10回茂出木	義雄	高10回山田	裕昭
高11回會田	光雄	高12回瀧瀬	景正	高12回星野	俊
高20回伊藤	通純	高20回池上	末美	高20回大井	基佳
高20回金沢	吉宣	高20回佐藤	昇	高20回鈴木	進
高20回宝田	国夫	高20回堀田	康雄	高20回田中	健次
高21回松本	一広	高25回菊田	幸一	高32回鈴木	康

敬称略

編集後記

■とにかく「怖かった」のひとつ。阿出川監督に対するサッカー部一〇Bの印象です。でも、それもうなずけます。四十三年間の無遅刻・無欠勤は、生徒に要求する以上に、自己に厳しかった証でしょう。(悠)

■税理士として、実用書まで出版して活躍されている富岡さん。若き日の向学の思いをはたして大学院に学ぶ。「一生勉強が人の道」との母校恩師の教えが「今の自分に生きている、とは彼の弁」と同級生は証言しています。(良)

■同期の輪に、平成十八年卒業(高校五十八回)のヤングたちが登場しました。「成人の集い」に参集した面々です。このうち三名の代表が同窓会の理事を引き受けてくれました。ありがとうございます。(洋)

本郷祭に同窓会サロン

(同窓・同期の交流の場)

同期会やクラス会のきっかけ作りにご利用下さい。校友が集う場を同窓会が微力ながら用意します。

(参加費用一,〇〇〇円)

開催予定 9月20日(日)13時より16時まで
場 所 三菱養和会巣鴨スポーツセンター

「レストランパルテール」
利用方法 本郷祭会場内の同窓会展示教室で同窓会サロン利用券を受け取り会場にお持ち下さい。同窓会展示教室は未定です。当日の本郷祭案内を参照下さい。

ホームページ掲示板の御利用には左記IDとパスワードを使って下さい。
ID:hongo PW:1234



月桂樹を寄贈

学園の校庭が人工芝に全面改修されたのにも
ともない、同窓会として月桂樹二本を寄贈し、
人工芝校庭と巣鴨門への通路との境界に植樹
しました。

南



広い校庭が緑も鮮やかな人工芝に（2008年9月完成）

本年度の本郷祭は
9月19、20日です。
卒業生のご来場を
お待ちしております。

平成21年6月1日発行

本郷学園同窓会

発行責任者 山内 英夫

〒170-0003 東京都豊島区駒込 4-11-1 本郷学園内
同窓会へのお問合せはFAXにてお受けします。

FAX：03-3917-0007